

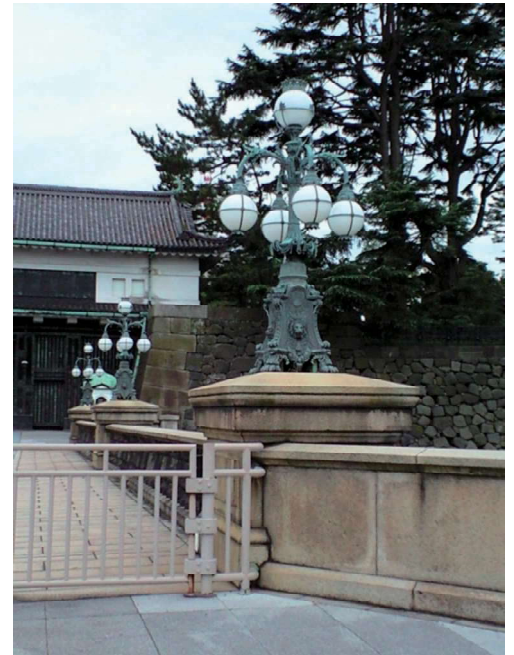
〔街 路〕 君が代は千代に八千代に 東京 皇居前広場と二重橋
 上は正門鉄橋（二重橋。旧西の丸下乗橋） 下は正門石橋（旧西の丸大手橋）



東京駅丸の内中央口から皇居に向かう大通りを御幸通りという。直進して日比谷通りを渡ると皇居前広場で、手入れの行き届いた松林と芝生の広場がのびのびと広がる。

宮殿のエリアに入るためには二重橋濠に架けられた二つの橋を渡らなければたどり着かないようにできている。第一の橋は正門石橋と言い、明治20年（1887）に江戸時代に西の丸大手橋と呼ばれていた木造の橋から石の橋に架け替えた。その先に正門鉄橋があり、江戸時代の西の丸下乗橋（大名といえどもここで徒歩になる）＝堀が深かったので木造の桁を上下二段に架けていた（そこで二重橋の名がつく）＝を昭和39年（1964：東京オリンピックの年）鉄造に架け替えた。二重橋は一般人は通れないことになっているのだが、正月と天皇誕生日の一般参賀の時は無許可で通行ができる。

桜田濠から正門石橋をバックに観光客が大勢いて次々と写真を撮る。橋の奥に伏見櫓も見えて絵葉書のような景色になるので、人気のスポットなのだ。中でも中国人や韓国人の多いのには驚かされる。



この情景を見て思うのだが、御幸通りから皇居前広場一带に、ロンドンの「ザ・マル」のように大きな日章旗が林立していたらどうだろう。おそらく中国や韓国は黙ってはいまい。左の写真のように広大な広場が何となく寒々としているのはただ広いだけだからだ。なお石橋に取り付けられている右上の照明は明治期に作られた電飾の形状を継承して付け替えられたものである。